

第1学年*組 芸術科（美術Ⅰ）学習指導案

指導者 小沼 宏美

1 題材名 願いを叶える〇〇な形 一石に秘められた形を彫り出そう—

2 題材の目標

- ・石材を彫刻することに関心をもち、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- ・石材の形や材質感を踏まえて自分の思いを基に主題を生成し、表現の構想を練ることができる。
(構想や発想の能力)
- ・石材を彫刻するために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表すことができる。
(創造的な技能)
- ・他者の作品のよさや美しさを創造的に味わうことができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 題材観

本題材では、加工しやすい石材を用いて、生徒が思い描いた形を表現する活動を行う。高等学校学習指導要領解説芸術編（平成21年12月）美術Ⅰの内容A表現（1）アでは、「感じ取ったことや考えたこと、感動や湧出したイメージ、自己の考えや夢などを基に、表したいことを自らの内面に働きかけ問い合わせながら、主題をつくりだしていくことが大切」と示されている。本題材の、「自分の願いを叶えてくれる形」を考えることは、考えや夢などを基に主題を生成する能力を育成することにつながる活動であると考える。また、柔らかく加工しやすい石材を使用することで、材料や用具の特性を生かして、工夫しながら表現することができると考える。

(2) 生徒の実態

本校の第1学年*組の生徒は、男子*名、女子*名で活発な生徒が多く、題材に対して意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、時間をかけて粘り強く課題に取り組んだり、自分の考えを形や言葉にして相手に伝えたりすることに難しさを感じている生徒も多い。一方、学年初めの授業アンケートでは、中学校段階で石彫を経験してきている生徒が少なからずいることや、印象に残っている題材に立体に表すことを挙げる生徒も多く、本題材においても熱心な取組が期待される。

(3) 指導観

本題材では、まず、ワークシートとスライドソフトを使って、石彫作品である中国の玉器や木彫作品である日本の仏像を鑑賞し、作品に込められた作者の思いや願いに気付くようにする。形自体の美しさや技術の巧みさだけではなく、材料による工夫や込められている思いによって作品のもつ意味合いが変わることを理解することで、意欲的に発想し構想を練ることができると考える。次に、アイデアスケッチを行い、「自分の願いを叶えてくれる形」を考える。このときに、話し合い活動を行い、クラスメイトの話や自分の生活体験の中から主題を生成し、言葉にしたりアイデアスケッチを描いたりしながら構想していく。イメージしたことが立体として把握できない場合は、モデルになる物を参考にしたり、粘土を用いながらスケッチしたりするようにする。このように、発想や構想の段階でしっかりととした考えがまとまっていることで、制作の見通しをもちながら活動することができると考える。

4 指導と評価の計画（8時間扱い）

次 時	学習活動	評価の観点				学習活動に即した評価規準 () 内は評価方法
		関	発	技	鑑	
1 ①	・石彫作品や木彫作品を鑑賞する。 ・願いを叶える形のアイデアスケッチをする。	○				・石材を彫刻することに関心をもち、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとしている。 (観察、ワークシート) ・石材の形や材質感を踏まえて自分の思いを基に主題を生成し、表現の構想を練っている。 (ワークシート)

2	2 7	・材料の石材に各方向からデッサンを入れる。 ・やすりで荒取りをする。 ・彫刻刀で細部を彫る。 ・磨いて仕上げる。	○		○		・石材を彫刻することに关心をもち、主体的に表現活動に取り組もうとしている。 (観察) ・石材を彫刻するために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。 (観察、作品)
3	8	・相互の鑑賞会をする。	○			○	・完成した作品に关心をもち、主体的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。 (観察) ・他者の作品のよさや美しさを創造的に味わっている。 (鑑賞カード)

5 本時の学習

(1) 目標

石材の形や材質感を踏まえて自分の思いを基に主題を生成し、自分の思いや願いに合った表現の構想を練ることができる。

(2) 準備・資料

教師：ワークシート、鑑賞資料、スケッチ用紙、石材（高麗石 3.5 cm × 3.5 cm × 8 cm）、紙粘土
生徒：筆記用具、教科書

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点（◎評価）
1 本時の学習内容を確認する。 願いを叶える○○な形 一石に秘められた形を彫り出そう— ・スライドを見て、作品に込められた思いや願いに気付く。（スライド5分間） ・ワークシートに感想や考えを書く。 ・周りと意見を交換し合い、いろいろな思いに気付く。（話合い5分間、発表3分間）	・本時の学習内容を伝え、見通しをもてるようとする。 ・中国の玉器や日本の仏像など身近にある彫刻作品を例に挙げ、作品に込めた思いや願いが形に表れていることが分かるようにする。 ・美術室内を自由に歩き回って参考作品に触れ、他者と相談できる時間を設けることで、発想や新しいアイデアに結び付くようにする。 ・机間指導で個別に対応し、それぞれの思いや考えを具体的に挙げられるように支援する。
2 一人ひとりが願いを叶えてくれる形を考える。 ・形をアイデアスケッチに描き起こす。 ・様々な角度から形を想像し、デッサンにしていく。 〈予想される反応〉 ・サッカーが上手になるようにボールとスペイクを合わせた形にしたい。 ・勉強ができるように、文房具をイメージした形にしたい。 ・優しさをイメージする、丸くいやされるような形にしたい。	・発想の手助けになるように、石材を配布する。 ・石材のもつ美しさや、磨くと光る特徴等を生かした形になるように助言する。 ・石材の大きさや全体のバランスを考えながらアイデアスケッチをするように助言する。 ◎石材の形や材質感を踏まえて自分の思いを基に主題を生成し、自分の思いや願いに合った表現の構想を練っている。（ワークシート） ・期間指導で、発想したキーワードから形を連想できるよう手助けする。 ・具体的な形だけでなく、抽象的な表現も可能であることを伝える。 ・立体に置き換えられない生徒には、粘土を用意して立体的に形が把握できるようにする。
3 本時を振り返り、次時の確認をする。	・本時の学習内容を、これから制作に生かしていくように呼びかける。